



# 彩の国 農業人

～人の暮らしに欠かせない衣食住  
農業(食)を通じてこの地を豊かにしたい～

やなぎだ だいいち

柳田 大地さん

小川町において、自然環境と共存することで、その土地が豊かになることを願い、不耕起、無農薬、無肥料で野菜を育てる<sup>ソウ</sup><sup>ウ</sup><sup>ファーム</sup>SOU FARMの柳田大地さんをご紹介します。

柳田さんは、母親の「食」への気遣いを通して、「食」が体を作るだけでなく心も育てていることに気付き、10代の頃から、「将来は農家として食べ物を育む人になりたい」との思いがありました。

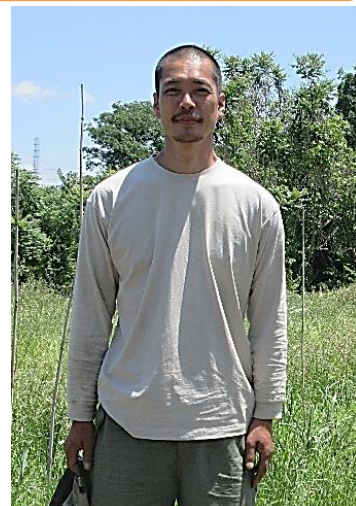
人の暮らしを支える「衣食住」の「衣」がどのように成り立っているのかを学ぶためにアパレル業界で働いたことで、人の暮らしを支える役割・重要性や生活における必要性を感じました。

アパレルで働きながら、若き日の農家になる夢を実現するため、休日を利用して、小川町の農家のもとで有機農業を学び始めました。30歳までには就農したいという思いが強かったこともあり、29歳の時に実家のある川口市から小川町に家族で移住し、就農しました。移住先の自己所有分の30aの畑に、中間管理機構を利用して借りた50aの畑を加えた合計80aの畑で、不耕起、無農薬、無肥料による有機農業を始めました。また、収穫が終わった畑を耕起することなく、自ら野菜の種を採って畑に蒔く農業を行っています。

当初は、80aの畑に多品種(約100種)の野菜を栽培しましたが、それぞれの野菜との関係性が薄れることから品目を絞り、現在はこの場所に合う約30種(ナス、トマト、ピーマン等)の野菜が安定して収穫できるようになりました。農作業は一人で行っており、繁忙期には妻に手伝ってもらっています。販売先は、都内の飲食店(約20店舗)への直接販売が中心で、店舗やスーパー等には販売していません。飲食店の人には、実際の畑や野菜を直接見てもらい、理解していただいた上で販売しています。

数年前に、四国の友人から譲り受けたさつまいもの種を畑に植えたところ、当初は味もなく失敗かと諦めていましたが、3年目にしてさつまいもの味が出てきました。これは野菜の生命力が土地に適応してきたためだと思います。野菜そのものの力で土地に順応して成長していくこと、時間はかかるけれど本来の野菜の味がそこにあり、人が手を加えることなく野菜自体が生命力をもってその土地に宿ることが、土地を発展させ環境を良くすることに繋がると考えています。

柳田さんは、野菜で得られる収入は大切なことではあるが、畑の規模を拡大して、収穫量・収入に特化する農業は望んでいません。今の畑の一部を開放して、農に関心がある人が、農業を体験できる場所を作りたいと考えています。農業を通じて、その土地の環境向上、その土地に暮らす人々の生活を少しでも豊かにすることに、皆で協力し合えたらと日々思っているとのこと。



SOU FARM 柳田 大地さん



編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館  
TEL 048-740-5835 <関東農政局HP> <http://www.maff.go.jp/kanto/>